

# 新岡垣風土記

第443回

## 古文書で探る庶民のくらし

### ―唐津街道の掃除受持丁場―

岡垣歴史文化研究会 羽山 健一

江戸時代の唐津街道の清掃や補修は、周辺の村々が夫役で担っていた。夫役は、数え年15歳から60歳までの男性に、年間20から25日の労働を課す男役である。村の担当区間を掃除受持丁場と称していた。

『嶺文書』に「西往還・中筋往還・東往還村々請持丁場間数控」という文書がある。普請方の久次が、文政元（1818）年に改変された遠賀郡の受持丁場を、天保3（1832）年9月に書き留めた文書である。西往還は唐津街道で、東往還は長崎街道である。中筋往還は、赤間（宗像市）から猿田峠を越えて木屋瀬（北九州市八幡西区）に至る道筋と、途中の新延（鞍手町）から黒崎（北九州市八幡西区）に至る道筋で、中通りとも呼ばれていた。同文書の岡垣町に関する部分を紹介する。

#### （西往還）

宗像堺より笠松家下迄

一、長百三拾八間 上畑村

但、耆人に付き六間宛

（笠松は上畑村の枝村で人家は3

5戸。1間は1・8メートル、

面役23人）

笠松家下より海老津村抱迄

一、同六百三拾九間 高倉村

右同（面役106・5人）

海老津村抱

一、同百三拾八間 野間村

右同（面役23人）

メ九百十五間

居村抱

一、同式百四拾九間 海老津村

耆人に付き五間宛

（面役49・8人）

メ千百六拾四間

海老津村抱より山田村抱迄

一、同五百拾貳間 吉木村

耆人に付き三間宛

（面役170・6人）

山田村抱

一、同式百拾三間 三吉村

一人に付き五間宛

（面役42・6人）

同村抱

一、長三百廿六間 手野村

耆人に付き四間半宛

（面役72・4人）

同村抱

一、同式百八拾間 山田村

耆人に付き五間宛

（面役56人）

同村抱

一、同百七拾六間 内浦村

耆人に付き式間宛

（面役88人）

同村抱

一、同八十間 原村

右同（面役40人）

山田村抱より糠塚村抱迄

一、同百七拾間 松原（村）

糠塚村抱

一、同五百十間 糠塚村

メ三千四百三拾壹間

文書は、唐津街道の城山峠から糠塚までの岡垣町域を記すが、芦屋境から先の記載が無いのである。中筋往還の部分に戸切村と黒山村の丁場があるので紹介する。

同（則松村抱） 六十五人

一、同式百廿七間 戸切（村）

三間（半）宛

（中略）

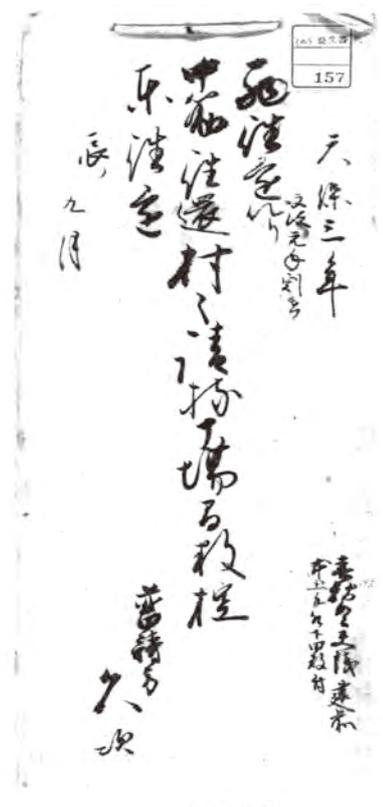
陣原抱式百三十八間

則松抱六十八間 六十耆人

一、同三百五間 黒山村

五間宛

とある。則松・陣原は北九州市八幡西区であり、遠距離での夫役は困難を極めたであろう。この文書に記載の無い波津浦は、浦方夫役があるので街道の夫役が免除されていたのである。



▲嶺文書